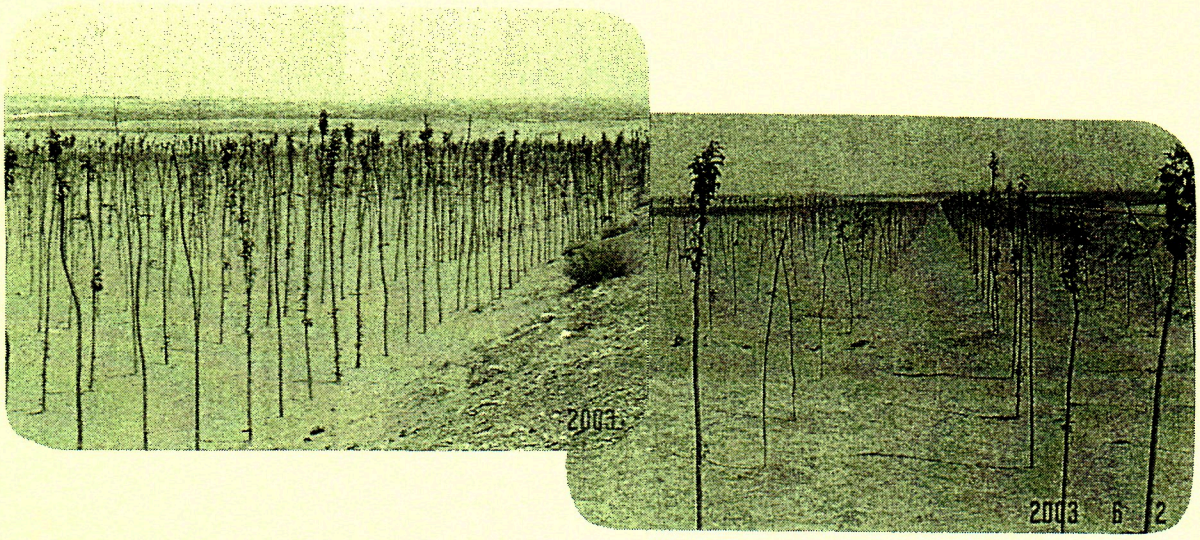
緑の架け橋

会報第２号
2003年7月15日

ＳＡＲＳの影響により、初年度のボランティア派遣はやむなく中止

～現地では地元の方々により植林活動が始まりました～



地元ボランティアにより、寧夏回族自治区・紅寺堡地域では植林がスタート（4月）

ボランティア派遣をＳＡＲＳが直撃、残念ながら中止を決定

緑の架け橋推進センターでは、寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクトの具体化として、本年の４月・７月・９月に、ボランティアを現地に派遣し、植林活動に取り組むこととしていました。実際に、４月の第１次派遣団には２０名を超える方が参加を予定し、渡航準備を進めていました。

しかし、アジアを中心にＳＡＲＳ（重症急性呼吸器症候群）が広がりを見せ、中国・北京への渡航注意勧告が出されるなどの状況を受け、第１次派遣団については延期として、事態の推移を見守ってきたところです。その後、ＳＡＲＳについては、全体的には沈静化しつつあるものの、なお予断を許さない情勢にあり、第２次・第３次派遣について判断が求められる中で、６月１６日、緑の架け橋推進センター常任委員会において、「スタートしたばかりで大変残念だが、今年度のボランティア派遣は見送り、来年度以降、改めて取り組みを強化していく」ことが確認されました。

現地（寧夏回族自治区・紅寺堡）での事業はスタート！

残念ながら、日本からのボランティア派遣は中止となりましたが、プロジェクトの実施地である寧夏回族自治区・紅寺堡地区では、青年連合会が中心となり、地元ボランティアによる植林活動がすでに始まっています。現地からの報告では、4月にまず、ポプラ・アカシア・神樹について 105,000 本（100ha）が植えられ、秋以降には、ナツメ・ヤナギなど 12,000 本が追加される予定です。

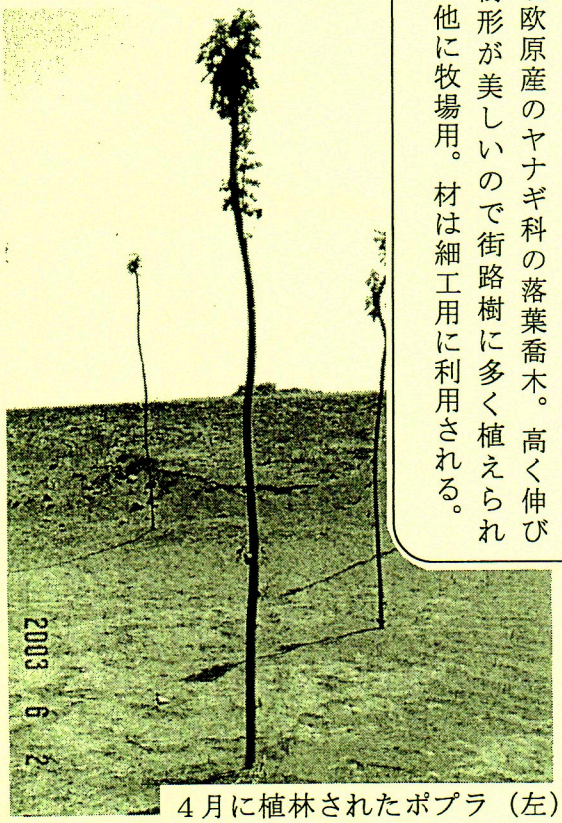
事務局では、秋口に現地へ赴き、植林活動の状況確認、現地スタッフとの打ち合わせなどを行い、あらためて皆さんに詳細を報告したいと考えています。

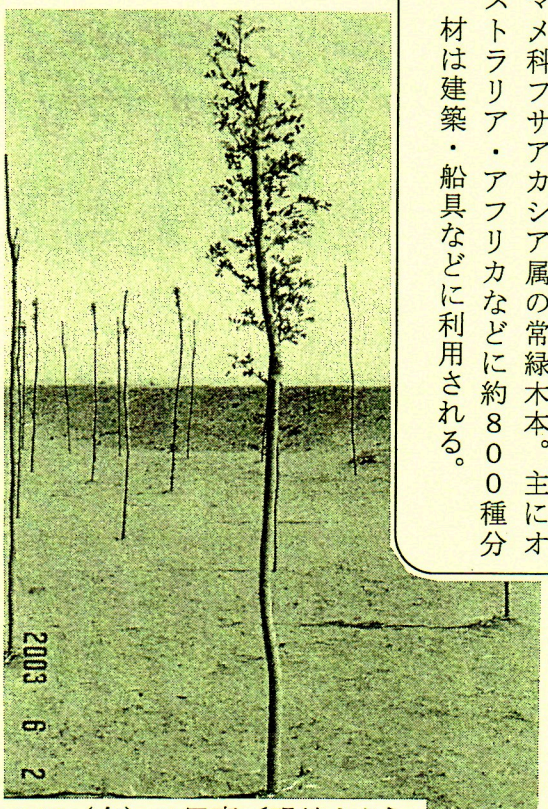
沙漠を緑の大地へ！

壮大な夢の第１歩が動き出しました

アカシア
マメ科フサアカシア属の常緑木本。主にオーストラリア・アフリカなどに約８００種分布。材は建築・船具などに利用される。

ポプラ
北欧原産のヤナギ科の落葉喬木。高く伸びた樹形が美しいので街路樹に多く植えられる。他に牧場用。材は細工用に利用される。





４月に植林されたポプラ（左）とアカシア（右）の写真〔現地より〕

活動を支えるのは皆さんのあたたかい心です。

ご協力いただける方はいますぐ会員登録を！

当センターの活動は、基本的にボランティアにより行われるほか、植林緑化活動に必要な資金は賛助団体及び個人からの会費と公的団体からの助成金でまかなわれます。

既に、多くの方が活動に賛同いただき、６月１６日現在で、団体・個人を合わせて目標（３００口）のおよそ３分の１にあたる、１２０口以上の方に会員登録を行っていただきました。

皆さんのあたたかい支えがあってはじめて、沙漠に１本１本の樹が植えられ、それらが育つことで貴重な緑の大地がよみがえります。会員登録がまだお済みでない方は、いますぐ登録をお願いします。（お問い合わせは緑の架け橋推進センター事務局まで）

緑の架け橋推進センター
中国植林緑化活動協力事業
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト
〒162-0801　東京都新宿区山吹町333辻ビル405　TEL.03-3268-4387　FAX.03-3268-6079